

水替え無しで 早! 楽! 安!

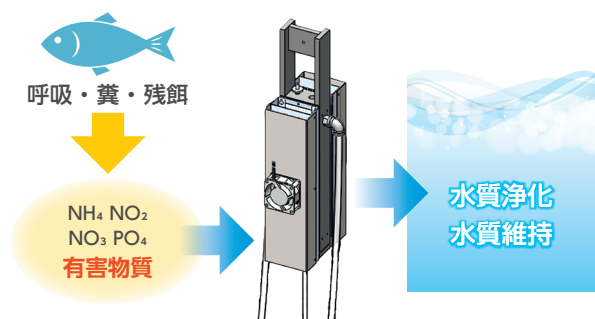
水中光触媒技術 ENP

本技術の用途

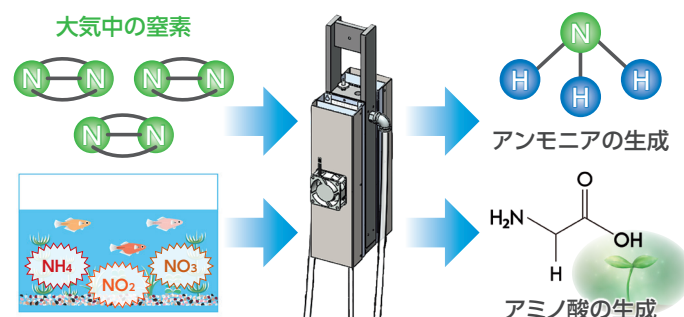
技術名	効果	用途
水中光触媒技術 ENP	水質改善	陸上養殖・水槽設備・観賞魚飼育
	アミノ酸生成	アクアポニックス・水耕栽培
	窒素固定	有機栽培・灌漑設備・循環型農業生産

水中光触媒技術の効果

汚れを除去する効果



触媒作用を利用する効果

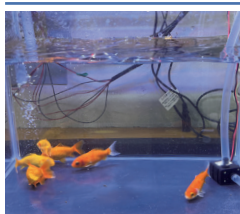


水中光触媒デバイスを経由して
水の浄化保持または有益な物質を生成します!

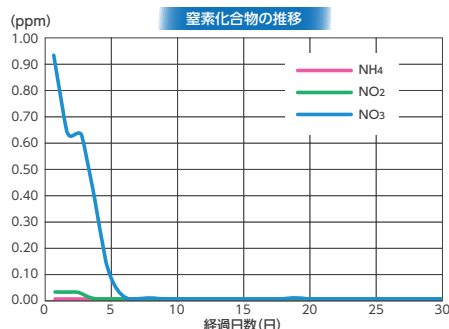
水中光触媒技術の水質データ

水中光触媒デバイス設置後
わずか数日で有害な成分を除去し、水質を維持しています!

淡水の場合



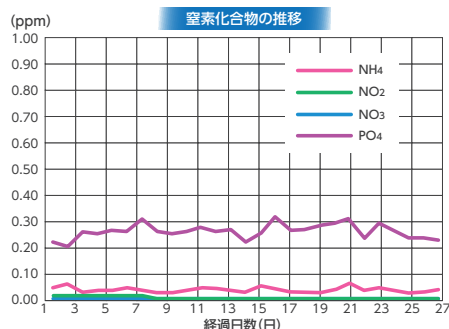
測定条件 水量15ℓ 水温25℃
金魚5匹 毎日測定



海水の場合

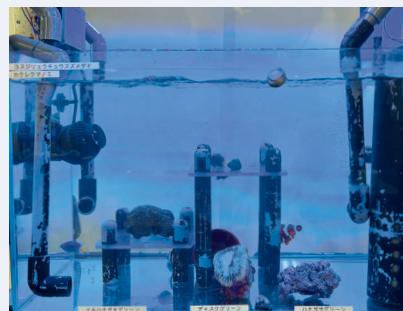
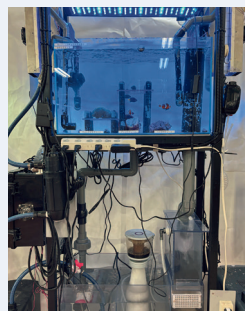


測定条件 水量50ℓ 水温25℃
海水魚6匹 毎日測定
(※デバスマスター)

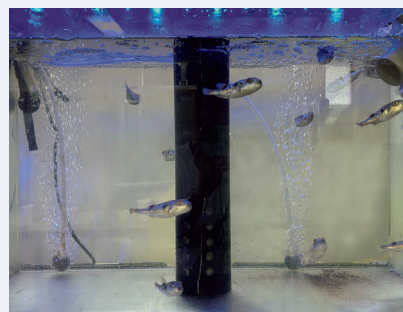
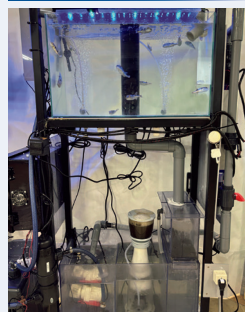


ENPによる水質改善効果を、 異なる魚種飼育環境下で確認

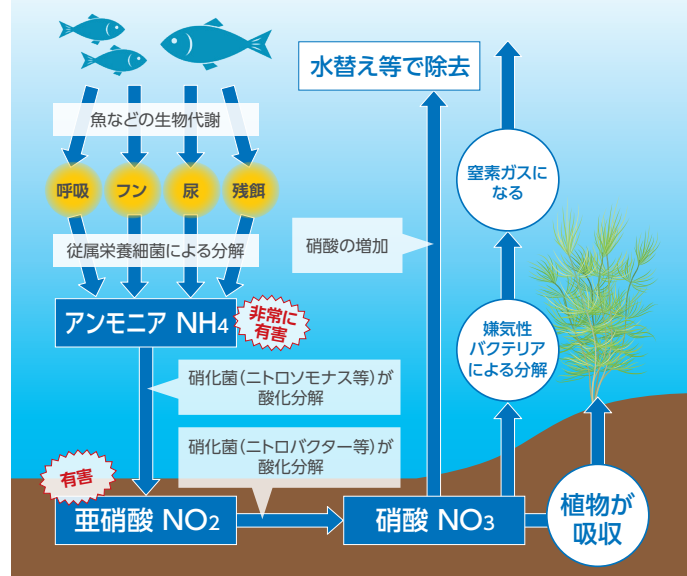
観賞用海水魚の飼育



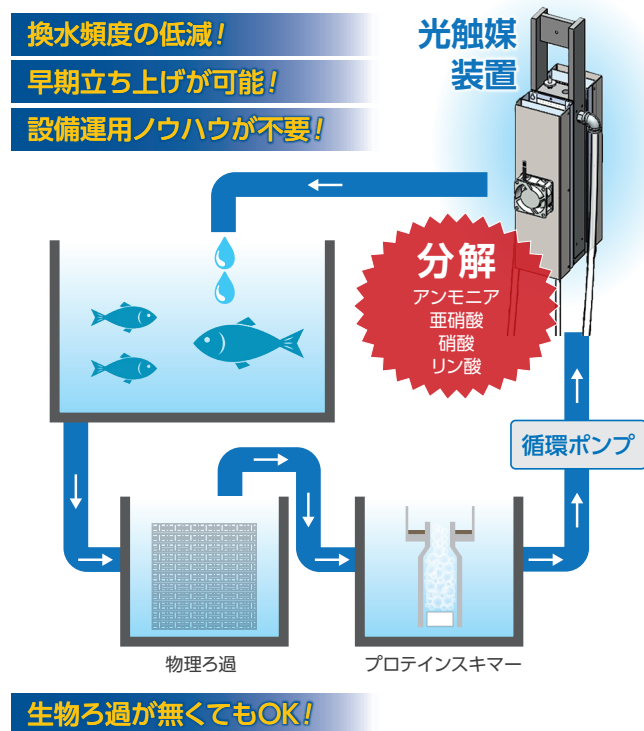
フグの飼育



飼育水とアンモニア発生のメカニズム



陸上養殖システムへ設置した光触媒装置の簡略図



資料のダウンロードはこちらから



技術概要



水質改善



アミノ酸生成



窒素固定

未公開データも
動画でご視聴可



YouTube



● お問合せ先 ●

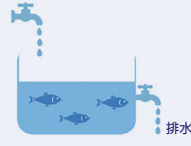
■ 販売代理

APS
JAPAN

541-0059 大阪市中央区博労町4-5-6 野上ビル4F
TEL 06-6245-1861 FAX 06-6245-1862
Email sales@apsjapan.co.jp
URL https://www.apsjapan.co.jp/

現在の 陸上養殖方式 と 課題点

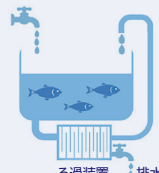
かけ流し方式



水源から新しい水を絶えず供給し、
使用済みの水を排出する
最も基本的な方式

課題1 自然環境への排水負荷

半閉鎖循環方式



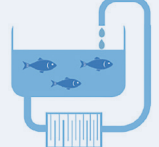
掛け流し方式と閉鎖循環方式の
中間に位置するハイブリッド方式

※かけ流し方式と比較

課題1 使用機器・コストの増加

課題2 水質の維持が困難

閉鎖循環方式



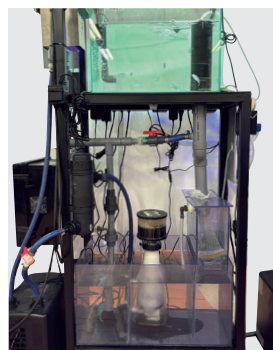
養殖水を高度に浄化・処理して
繰り返し再利用する方式

課題1 初期投資・ランニング
コストが高い

課題2 設備運用のノウハウが
必要

課題3 水質の維持が困難

海水魚飼育での 光触媒装置(有無) 比較



飼育水の水質(アンモニア)が、
危険域に達した後、光触媒装置を
設置。
3～5日後には、アンモニアなどの
窒素化合物やリン酸など有害物質
を分解・除去し、水質を改善し、
水質を維持できます。

■測定条件
水量: 約60ℓ
デバズメダイ各20匹飼: 1日0.1g/回×2回
■測定機器
マリンチェッカー/毎日測定

